

(3) 5歳児事例

5歳児 6月29日 「あっ、これならいけるかも！」

米林 加織

探究心：物事の仕組みや性質，原因を知りたい気持ち

幼児の姿

段ボールで牢屋をつくったことをきっかけに、前週金曜日、5A児、5B児、5C児、5D児を中心に、ほし組で警察ごっこが始まった。しかし、泥棒役になりたい幼児がおらず、自分たちで相談したり、他の遊びをしている友達に「泥棒役になってくれない？」と尋ねたりしてみるものの、なかなか決まらず遊びが再開できない。教師が材料室から小さな段ボールを取り出し、箱の形に組み立て始めると、つくって遊ぶことが大好きな5A児は、教師の側にすぐに駆け寄り、尋ねてきた。

5A児：「先生、何つくっているの？」

教師：「宝箱つくろうかなあって。その方が、泥棒役が楽しくなるかなあって思って」

①5A児：「それ、いいね！ でも宝箱なら、上の蓋の部分が丸くなくっちゃ」

教師：「こんな感じってこと？」

教師は手で半円を描きながら、5A児に尋ねた。

5A児：「そう、そんな感じ。ねえ先生、5A児(僕)も一緒に宝箱つくりたいんだけど」

教師：「うん、一緒につくろう。ねえ5A児くん、蓋の形はわかったんだけど、どうやってつくればいい？」

5A児：「貸して！まず、横に丸くペンで線を描いて切るでしょ…」

5A児はつくり方を説明しながら、側面上部に半円を描き、ハサミで切りはじめた。

5A児：「ほら、こんな感じ。でもこれだと、蓋の上の部分がないし、こんな風にしていって…」

5A児は側面のカーブに合わせてるようにしながら、余っていた側面を少しずつ曲げて、内側からガムテープで固定していった。

②5A児：「あっ、どうしよう。これだと蓋の上がまだあいている」

説明しながら順調につくっていた5A児の表情が、一瞬固まった。1分程、黙り込んでいた5A児だったが、すぐに解決策を思い付いた。

5A児：「先生、切れ端でいいから、段ボール余ってない？」

教師：「切れ端なら、製作コーナーに余っているはずだわ」

5A児：「あっ、これならいけるかも！」

段ボールの切れ端を、宝箱の横幅に合わせていくつか切り、穴の開いた衣服に当て布をするようにして、それらを箱の内側からガムテープでふさいでいった。

(補足) 泥棒役になる楽しさに気付くことを願って、教師が意図的に宝箱をつくり始めてみた

探究心

①「もっと宝箱らしい形にできるのに」という5A児の思いが、「自分も一緒につくってみたい」という思いにつながっていったのではないかと考える

向上心

(補足) 半円のような線を描いた



(補足)

2つの側面を少しずつ曲げた



探究心

②課題に直面し、一瞬固まったが、自分なりに解決策を考え、必要な材料を調達して試している。また、調達した材料を用いて、「これならいけるかも」と見当をつける姿も、探究している姿であると思われる

解決しようとする

予想

③5A児：「見て！宝箱の形になったー！でも、もっと丈夫にしたり、色をつけたり、鍵穴もつけたいんだよね。とりあえず、鍵穴の場所に印をつけて…」

5A児はそう言いながら、鍵穴をつくりたい場所にペンで小さな丸を描いた。

教師：「材料室にこんなガムテープ（黒や銀）とかあるんだけど使う？色もつけられるし、丈夫になると思うんだけど」

5A児：「いいね。その（黒と銀の）ガムテープ、ちょっと貸して。しましま模様をしたい」

5A児が宝箱の蓋にガムテープを貼っていくと、より宝箱らしく見えるようになってきた。すると5B児も興味をもち、5A児に声を掛けた。

5B児：「5B児ちゃん（私）も作りたい！」

5A児：「じゃあ5B児ちゃんも、黒、銀、黒、銀って順番にしましまに貼るの、手伝ってくれない？」

5B児：「わかった！」

5A児：「鍵穴のところは、まだ貼らないでね。穴開けてから貼りたいし」

5B児も加わり、2人でガムテープをしましまに貼っていくことになった。四角の面は相談しながら貼っていったが、④半円状の面にガムテープを貼っていくうちに、5B児が困った表情を浮かべ、話し始めた。

5B児：「5A児くん、ここ（蓋の側面）カーブしてるし、ガムテープ貼ったら隙間があいて、下の段ボールが見えちゃうんだけど…」

5A児：「うーん…」

5B児：「ガムテープを少し大きくちぎって、折り曲げながら貼る？」

5A児：「うーん…… そうだ！ ガムテープをこうやって小さくちぎって、隙間に貼っていけばいいんじゃない？」

5B児：「5B児ちゃん（私）もやってみる！」

ほとんどの面にガムテープを貼り終え、いよいよ完成が見えてきた。

⑤5B児：「鍵穴つくったあと、この隙間（鍵穴の周りの隙間）もガムテープを小さくちぎって貼ってこうよ」

5A児：「いいね。そうしよう」

5A児が宝箱をつくりはじめてから約40分後、ようやく宝箱が完成した。

5A児、5B児：「できたー！」

そこにはたくさん人が集まっており、「見せて」「すごーい」「本物みたい」と言われた5A児と5B児は満足そうな表情を浮かべていた。「おれ、泥棒役したい」と新たな仲間も数名加わり、ほし組の警察ごっこが再スタートした。

探究心

③「もっとこうしたい」という5A児の思いがあったからこそ、箱の形ができた後も、つくり続ける姿が見られたのだと考える。また、教師の思いから作り始めた宝箱だったが、この頃には、5A児自身のつくりたい気持ちが高まっている

向上心

探究心

④太いガムテープでは埋まらない隙間をどうするか、二人で試行錯誤しながら解決策を探っている

試行錯誤

探究心

⑤小さくちぎったガムテープで埋めていくという自分たちで見出した解決策を、更に鍵穴の周りの隙間にも活用している

活用



探究心：物事の仕組みや性質、原因を知りたいと思う気持ち

幼児の姿

6月1日
 プランターで育てていたキャベツにモンシロチョウの卵がついた。大きく育った青虫を教師が別の容器に移し、①学級で青虫やサナギの様子を数日観察していると、ちょうどサナギからモンシロチョウがしわしわの羽根で出てくるのを学級皆で観察することができた。羽化したチョウを学級で飼うこととなり、「飼うならごはんを入れてあげないといけない」と皆で話していると、一人の幼児がタンポポを摘んで来て虫かごの中に入れた。すると、②タンポポの蜜をチョウが吸ってくれたので、その様子も皆で見ることができた。「やっぱり蜜を吸うんだ！」と皆喜んでいた。

6月2日
 今日、5E児は5F児と一緒に虫かごと虫網をもってチョウを探していた。モンシロチョウを見つけて追いかけるが、遠くに飛んで行ってしまった。すると5E児が、③近くのタンポポの花を摘んで、高く掲げながらチョウを追いかけていき、「チョウチョさーん、ごはんこっちだよー。こっちにおいでー」とチョウに向かって話した。それを真似て5F児もタンポポを摘み、高く上げながらチョウを呼んだ。なかなかチョウが来ないので、④5E児はタンポポをたくさん摘み、花束のようにしてチョウを誘うが、チョウは遠くに飛んでいき見えなくなってしまった。

しばらくチョウを探していると、5E児がモンシロチョウを見つけ、5F児が網で捕まえた。虫かごに入れ、タンポポを摘んで2、3本入れた。2人は大興奮して喜んでいた。

その後、園庭のあちこちを探すがチョウが見当たらない。すると5E児は⑤「チョウはお花の蜜を吸うから、お花の近くを探せばいいんだ！」と咲いているツツジの近くを重点的に探し始めた。しかし、この後チョウは見つからなかった。

探究心
 ①サナギの中にチョウの羽根が薄く見えているのを見たり、サナギからモンシロチョウがしわしわの羽根で出てくるのを見たりしたことで、チョウに対して好奇心をもっている **好奇心**

探究心
 ②チョウは花の蜜を吸うはずだと考え、実際にタンポポを入れると蜜を吸ったことで、思っていた通りだと感じ、さらに好奇心が大きくなっている **好奇心**

探究心
 ③「どうしてチョウはこっちに来ないのだろう」と考え、昨日タンポポの蜜を吸っていた様子を思い出し、タンポポを掲げればその蜜を吸いにチョウが来ると考えたのではないだろうか **予想**

探究心
 ④「蜜が足りないから来ないのかな」と考え、さらにタンポポを増やして試していると考えられることができる **改善**

探究心
 ⑤チョウは花の蜜を吸うから花の近くを探せば見つかる、と予想して行動している **予想**

自己主張：相手に対して自分の気持ちを説明したり表現したりすること

幼児の姿

6月9日
牛乳を飲み終わった後、遊びの話を学級で共有していると、5G児が困った表情を浮かべながら、「みんなに話したいことがあるの」と話し始めた。

①5G児：「今日、ケーキ屋さんを始めたくて、こんなの(メニューを) つくったんだけど、どうやってすればいいのか困っちゃったの」

②5H児：「じゃあ、たこ焼き屋さんの時みたいに、新聞紙を丸めてケーキをつくったら？ それで、絵の具でクリームみたいに塗るとか」

③5G児：「でも、ケーキを並べる場所とかどうすればいいのかわからなくて…」

④5C児：「それなら、さくら組(4歳児)の時にアイスクリーム屋さんで使ってた台がつき組にあったから、それを使えばいいんじゃない？」

5C児は手で屋台のような形をつくりながら言った。
5A児：「なんか、5A児も、ケーキ屋さんやってみたくなってきた」

幼児数名：「なんか、ケーキ屋さん楽しそう！」

自分の困っていることを学級の友達に相談したことで、解決策を得ることができ、また、友達から「楽しそう」「やってみよう」と言われ、5G児はホッとした表情を浮かべていた。

6月10日
昨日の5G児の話聞き、登園すると「今日はケーキ屋さんをする！」「5G児ちゃんにケーキさんにまぜてって言ったら、いいよって言われたの」と嬉しそうに話す5A児と5I児。早速、アイスクリーム屋さんで使っていた台をつき組から持ってきて、昨日5G児がつくったメニュー表を取り付けてみたものの、5G児、5A児、5I児は少し物足りなさそうな表情を浮かべていた。

⑤5G児：「ここ(カウンター)にビニールのシートが欲しいの」

自己主張
①遊びの中で困ったことを、自分から学級の友達に相談している
相談
困り感の共有

自己主張
②これまでの遊びをいかし、友達にアイデアを提案している
提案

自己主張
③困っていることを、より具体的に友達に伝えている
具体化

自己主張
④どこに何があるか、どんなものを使えばよいか、ジェスチャーも加えながら、より具体的に解決策を提案している
解決策の提案

自己主張
⑤何が足りないかを考え、欲しいものを言葉で表現している
不足
表現

⑥5A児：「そうだよね。ビニールのシート、いるよね。先生、ビニールのシートちょうだい」

教師：「どうしてビニールのシートが欲しいなあって思ったの？」

⑦5I児：「だって、スーパーのレジのところにも、ビニールのシートがあるでしょ？」

5A児：「そう、それ！ だからないとダメなんだよ」

コロナウイルス感染対策のために、店内のレジなどに付けられたビニールシートのことを思い出して言っているようだった。

教師：「そういうことね。じゃあ、色つきのビニールのシートより、透明のシートのほうがいいってこと？」

3人：「そう！」

教師：「幼稚園に、透明のシートはあったかなあ。色のついているものならあるんだけど… ちょっと見てくるね」

材料室内に使えるようなシートがないか探しに行くと、少し小さめの透明のシートが見つかった。

教師：「ちょっと小さなシートしかないんだけど、どうかな？」

5A児：「うん、これでなんとかなるかも！」

しかしサイズが小さいため、やはり取り付けるのが難しそうだった。

5I児：「うーん、じゃあこうやって縦に付ける？」

シートを縦にすると、どうしても左右に隙間ができてしまう。左右の隙間に5A児は悩みながらも、穏やかな口調で話し始めた。

⑧5A児：「でもなあ、なんか違うんだよなあ。あつ、このメニュー表の下に横につければいいんじゃない？」

5I児：「うん、これでいいねえ！」

自己主張

⑥5G 児の考えに共感し、使いたいのを教師に伝えている

共感
表現

(補足) 昨年度、たこ焼き屋さんやアイスクリーム屋さんをしていた時には付けていなかったものを欲しがったため、理由を聞きたくなり、尋ねてみた

自己主張

⑦社会生活を踏まえ、リアルにしたいという思いを、自分たちなりに伝えている

社会生活との関連
表現

自己主張

⑧よりよくするための解決策を、穏やかな口調で提案している

解決しようとする



自己主張：相手に対して自分の気持ちを説明したり表現したりすること

幼児の姿

4mほどある長い竹の樋を2本使って樋に水を流し、毛糸をそうめんがわりにして流しそうめんごっこを楽しんでいた。前日は教師が主体となり2本の樋を組み合わせて流しそうめんの装置を作ったが、この日は子供たちだけで作ることができるのではないかと思い、教師が作ることはしなかった。

5J児、5C児、5A児が中心となり、2本の竹の樋と2つの樋を置く台を組み合わせて流しそうめん装置の形はできた。しかし、水道から60cmほどのホースを使って樋に水を流そうとするが、ホースが届かない。ホースが届くように樋を動かすと、ホースの反対側が樋の置いてある台から落ちてしまう。落ちた樋を再び台に乗せると、ホースが届かない。5C児、5A児、5K児、5E児が何度か繰り返し、上手くいかないと騒いでいた。その3人の様子をすぐ後ろで見ながら、5J児が行ったり来たりし、樋の様子やホースの長さを見て何かを考えている。①そして、「こっちの台をずらさないダメなんだって」と口にしながら、一人で台を動かそうとするが、一人では上手くいかない。5J児が台を動かそうとしている間に、5C児と5A児が樋をホース側に引っ張り、また反対側が台から外れて落ちてしまった。

教師は5分ほどだろうか、様子を伺っていたが、5J児が隣のクラスの幼児である5C児や5A児になかなか自分の考えを伝えられない様子であり、5C児と5A児も自分たちが樋を動かすことに懸命で5J児が考えを話していることに気付かない様子だったため、5C児と5A児に声をかけた。

教師：「5C児くん、5A児くん、5J児ちゃんが何か考えているみたいだよ」

5C児：「(樋を動かすのをやめて5J児の近くに来て)何?どうしたの?」(5A児も5J児の近くに来た)

②5J児：「これをそっちにずらせばいいんだと思う」

5J児は樋を乗せる台を持ちながら、ホース側に動かしたいということを伝えた。

5A児：「どれぐらい動かすの?」

5J児が台を持とうとして、それを見た5C児は樋を一度台から外して下に置いた。

自己主張
①友達の様子を見て自分の考えをもつが、友達に伝えられず、一人ではできないと思いつつも行動している
状況理解

(補足) 児とはまだ関係性ができていない2人だったが、昨年からの様子から、児の考えを聞いて行動するのではないかと考え、2人に声をかけた

自己主張
②実際にものを動かしながら話すという表現方法で、自分の思いを相手に伝えようとしている
表現

③5J児：「(下に置かれた樋を見てから) あっち、ホースに届くようにして」

それを聞いた5A児が樋の一端を地面に置いたまま、ホース側の樋をホースが届く位置まで動かした。すると5J児は地面に置かれた樋の端の所まで台をもってきて、5A児が樋を持ち上げて台に載せた。

5C児：「よし、流してみよう！」

5A児：「オッケー！」

水を流すと、2本の樋を通して水が無事に最後まで流れた。

5C児：「よし、流しそうめん流そう！」

流しそうめんごっこが始まった。5J児もすぐにそうめんを流して遊び始めた。

自己主張

③5A 児が樋を下に置いたことで、ホースが樋に届いている状態で台を設置する方が良いと考え、その考えを友達に言葉で伝えている

表現



自己抑制：自分の気持ちを抑えて行動すること

幼児の姿

5L児と2人の友達が、5歳児ほし組保育室内でゲームボックスや窓型のダンボールを組み合わせておうちをつくり、お兄ちゃん役や犬役などを決めておうちごっこをしていた。すると、遅れて登園してきた5M児が、その様子を見た途端、窓型のダンボールを走って部屋の隅まで持って行ってしまった。そして5L児と5M児で窓型のダンボールの引っ張り合いが始まった。

5L児：「5M児くん、やめて！ それ、僕たちがおうちごっこに使っているんだから」

5M児：「うー！！」

5L児：「ねえ、5M児くん、やめてってば！ ねえ、5M児くん！」

5M児：「うー！！」

5L児：「ねえ、5M児くんってば！！」

2人とも段ボールを離さず、引っ張る力や口調がどんどん強くなっていった。

教師：「5M児くんはどうしたいの？」

すると、5M児は弱々しい声で教師に話し始めた。

5M児：「この（窓型の）段ボール、僕も使いたい…」

5L児：「でも、僕たちが先に使ってたの！」

5M児：「でも僕だって、ここ（ピアノの後ろの絵本コーナー）に僕のおうちをつくりたい。だからここ（ピアノの後ろの絵本コーナー）に、これ（窓型の段ボール）がいるのー」

①5L児：「それじゃあ、5M児くん、つき組の廊下にあるピンクのダンボール使えばいいじゃん。それなら僕たち、使ってないし、使ってもいいよ」

②5M児：「ふんっ、しょうがないな！」

段ボールから手を離し、その場から立ち去った5M児が、ピンクの段ボールを手に持ち、保育室内に戻ってきた。

5M児：「本当はそっち（窓型の段ボール）がよかったんだけどね。でも僕だけしか入れないおうちつくりたいし、こっち（ピンクの段ボール）でいい」

そして、ピアノの後ろの絵本コーナーにピンクの段ボールを置き、完成した自分のおうちの中にこもって楽しみ始めた。

(補足) つき組前廊下に、このような窓型の段ボール、ピンク色の段ボールの仕切りが置いてある。



自己抑制

①5M児の「ここにぼくのおうちをつくりたい」という思いを聞き、5M児なりの理由があることに気付く。しかし、自分も窓型の段ボールを使いたい気持ちがまだあるため、別の段ボールを使うことを代案として5M児に提案している

他者の心情の理解
提案

自己抑制

②窓型の段ボールを使いたい気持ちはまだあるものの、5L児の代案を受け入れ、自分なりに気持ちを切り替え、自分だけのおうちをつくらうとしている

受け入れ
気持ちの切り替え

自己抑制：自分の気持ちを抑えて行動すること

幼児の姿

5N児、5O児、5P児の男の子たちと、5Q児、5S児、5T児、5H児らの女の子たちがサッカーをしていた。いつもは男女入り混じって遊ぶのだが、この日はたまたま男女に分かれており、負けているから入ってほしいと呼びに来たので、教師は女の子チームに入って遊んでいた。男の子チーム対女の子チームの点数が13対9になったところで、点数を数えるために貼ってあったホワイトボードの磁石を使い切ってしまった。すると、5Q児と5S児が「(磁石が)全部無くなった！最初からしよう！」とホワイトボードの磁石を外し始めた。それを見た5N児と5O児が「何で外すの?!」とホワイトボードの所にやってきて、話し合いとなった。

5N児：「外したら点数分からなくなる！」

5Q児：「だってもう磁石ないもん。だから最初からだよ！」

5O児：「何で最初からなの?!」

5S児：「だってもう磁石貼れないから、新しくするしかないじゃん」

5N児：「嫌だよ！」

最初から新しい試合を始めたい女の子チームと続けたい男の子チームが「最初から!」「嫌だ!」とそれぞれの主張を言い合う時間が少し続いた。言い合いが落ち着いた時、5Q児が尋ねた。

5Q児：「どうして最初っからは嫌なの？」

①5O児：「だって…。たくさん入れたんだもん…。」

5O児は少し目を潤ませていた。5Q児、5S児、5H児はハッとした表情をした。

②5Q児：「あーん、そういうこと…。じゃあ続きからやろ！」

5H児：「続きからやろう!でも点数どうしよう」

5Q児、5S児、5H児はパッと切り替わった様子で話し始めた。今の点数を残したまま続けるにはどうしたらよいかアイデアを出し合い、5P児の“写真を撮っておく”，5Q児の“紙に書く”という案が出たが、それよりも良い案として5O児がホワイトボードに書いておくことを提案し、それが採用された。



(補足) もう少しで磁石が無くなりそうという時点で、サッカーをしながら女の子チームが話をしていた

自己抑制
①自分や自分のチームの仲間が得点が無くなるのが嫌だという5O児の気持ちに、5Q児や5S児、5H児が気付いた瞬間、パッと空気が変わった
他者の心情の理解

(補足) 女の子チームの9点はほとんど遊びを盛り上げようとした教師が入れた点数であった

自己抑制
②自分達が負けているから点数をリセットしたい、という思いを抑え、続きから始める為にはどうすればよいかを考えている
気持ちの切り替え